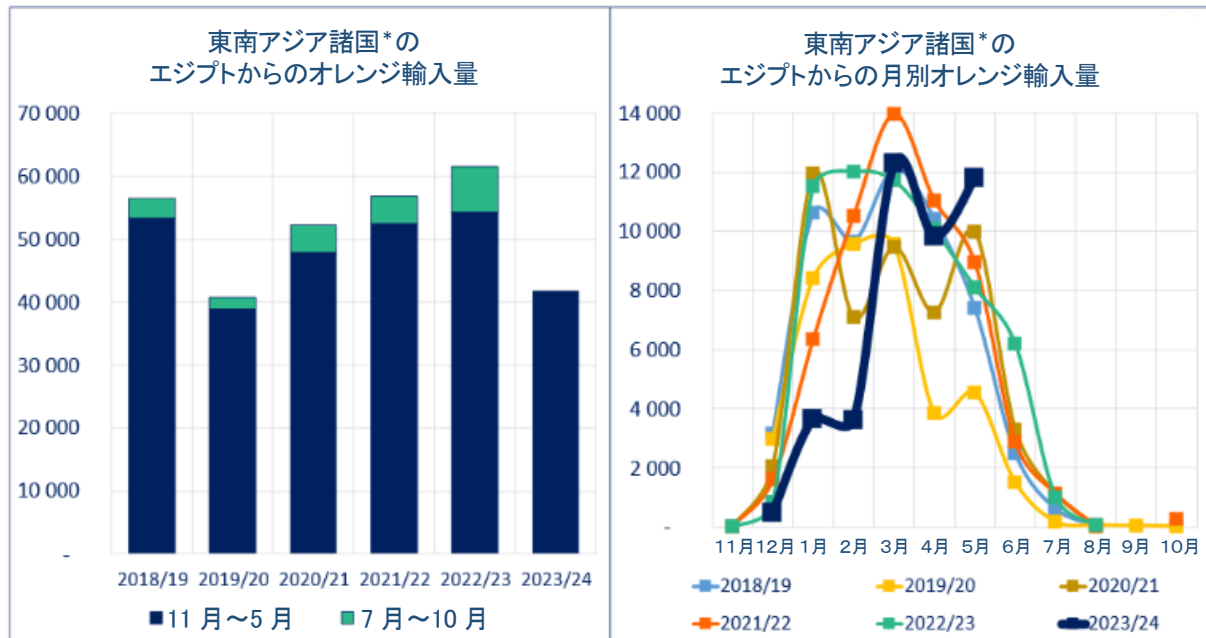


エジプト 東南アジアへのオレンジ輸出が減少するも依然主要供給国

EastFruit 2024年7月17日

EastFruit(情報サイト)によると、エジプトは2023/24年度シーズンの東南アジア諸国向けオレンジ輸出量が近年で最も少ない水準になると見られるが、この地域の市場では引き続き重要なプレーヤーである。



* インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ

データは Global Trade Tracker 分析は EastFruit

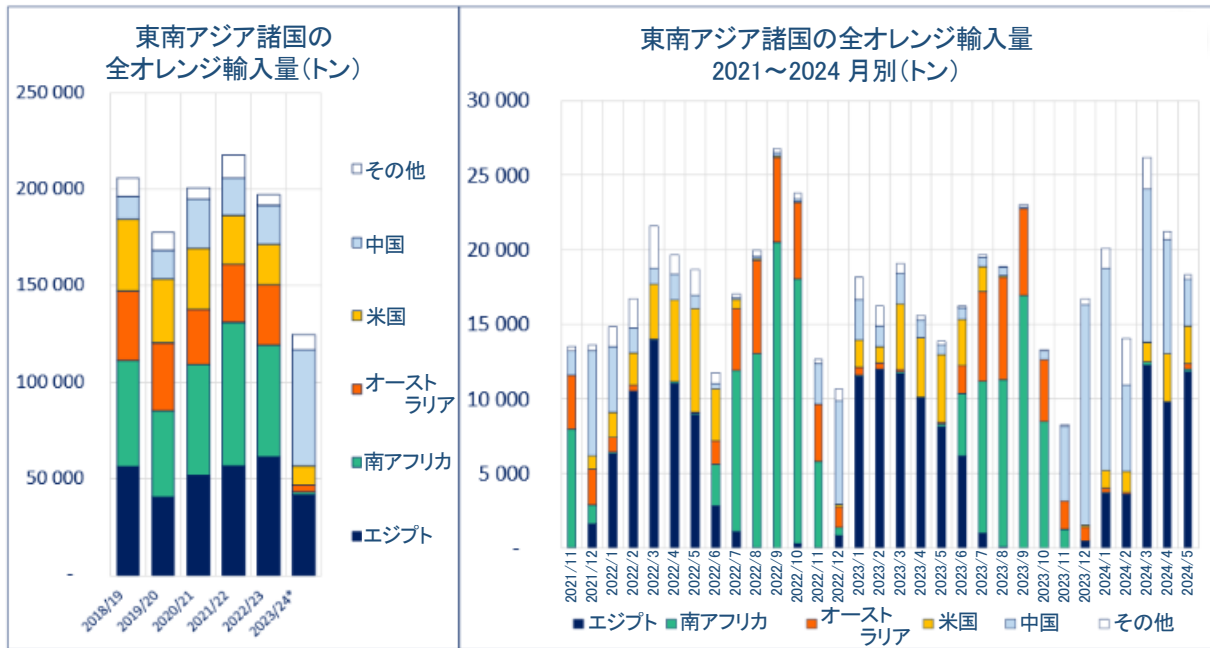
2023年11月から2024年5月にかけてのエジプトから東南アジア主要国(香港とベトナムを除く)へのオレンジ輸出量は4万2千トンに留まり、ここ数シーズンで最も低い数字の1つとなった。この地域におけるエジプトの存在感が最も顕著に低下したのは、オレンジ輸出シーズンが始まった1月から2月にかけてであった。

EastFruitの果実・野菜市場アナリストであるイェヴ・ヘン・クジン氏は、「残念なことに、イエメンのフーシ派による紅海の封鎖は、出荷シーズンの初めにエジプトからアジアへのオレンジ供給に深刻な打撃を与えた。エジプトの輸出は3月から4月にかけてやや回復し、5月には(同月として)史上最高を記録したが、時間がかかり過ぎた。その結果、2019/20年度シーズン以降初めて、エジプトは東南アジア諸国へのオレンジ供給の大幅な減少に直面するリスクがある」とコメントしている。

今シーズンは、エジプトがこの地域での地位を強化するチャンスであった。米国農務省海外農業局(FAS USDA)のアナリストは、今シーズンのエジプトのオレンジの収穫量が記録的となり、それに応じて、同国からのオレンジ輸出も記録的になると予想していた。一方、東南アジア諸国のオレンジ需要は、この地域の急速な経済成長、発展する消費市場、及び繁栄する観光セクターによって促進されるはずであった。

実際には、紅海封鎖により、エジプトの輸出業者に対してアジア市場は一時的に閉鎖され、エジプトポンドの切り下げにより既に比較的低くなっていった価格はさらに下落した。例えば、4月には、アフリカを迂回するルートでアジアへの供給が回復したにもかかわらず、エジプトの国内市場では、オレンジ1kg当たり約15米セントという信じられないほどの低価格が提示された。

クジン氏は、「香港を除く東南アジア諸国は今シーズンの最初の7カ月間でオレンジの輸入量が過去最高を記録したが、エジプトはこれらの出来事にほとんど影響を与えなかった。代わりに、この供給量の増加は中国からの輸出の増加によるものであった。中国は、以前はオレンジ供給国の中で5位にとどまっていたが、既にエジプトよりも多くのオレンジを東南アジアに輸出している」と続ける。



* 2023/24 は 11 月～5 月のデータ

データは Global Trade Tracker 分析は EastFruit

2つの最大の供給国(南アフリカとオーストラリア)が東南アジア市場に供給するのは6月から11月までであるため、(季節的に)中国と米国がこの地域におけるエジプトの主要な競争相手である。オーストラリアからの輸入は年間2万9千~3万6千トンの間で変動する一方、南アフリカはこの地域(ベトナムと香港を除く)に4万5千~7万4千トンのオレンジを供給しており、エジプトとトップの座を争っている。前回の2022/23年度シーズン終了時点で、エジプトが首位(6万2千トン)、南アフリカが5万8千トンで2位であった。

同氏は、「中国は、今シーズンの最初の7か月間で、前シーズン全体の3倍のオレンジをこの地域に輸出し、エジプト産が残した隙間を埋めた。同時に、米国の輸出量は2万トンと過去5シーズンでほぼ半減しており、これはエジプトの輸出業者が注目すべき事実である。エジプトの輸出業者が製品の価格を際限なく引き下げることはいずれできなくなり、安価なセグメントで中国のオレンジと競争することはますます困難になる。一方、米国が東南アジア市場から徐々に撤退していることは、プレミアムオレンジの輸出業者にとって絶好の機会であり、このセグメントでは、物流コストの増加という要因はもはや重要ではない」と結論付けた。